

**This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

**Defective images within this document are accurate representations of
the original documents submitted by the applicant.**

Defects in the images may include (but are not limited to):

- **BLACK BORDERS**
- **TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- **FADED TEXT**
- **ILLEGIBLE TEXT**
- **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- **COLORED PHOTOS**
- **BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS**
- **GRAY SCALE DOCUMENTS**

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

This Page Blank (uspto)

公開実用平成 2-15183

⑩日本国特許庁(JP)

⑪実用新案出願公開

⑫公開実用新案公報(U) 平2-15183

⑬Int.Cl.⁵

A 63 C 17/01

識別記号

府内整理番号

7008-2C

⑭公開 平成2年(1990)1月30日

審査請求 有 請求項の数 6 (全 頁)

⑮考案の名称 スケートボード

⑯実 昭63-93160

⑰出 願 昭63(1988)7月14日

⑱考案者 和田 治 高知県高知市瀬戸東町2丁目320番地

⑲出願人 和田 治 高知県高知市瀬戸東町2丁目320番地

⑳代理人 弁理士 田中 幹人

明細書

1. 考案の名称

スケートボード

2. 実用新案登録請求の範囲

- (1) 本体の上面前部に足掛け用のフックを設けたことを特徴とするスケートボード。
- (2) 本体の上面後部に足掛け用のフックを設けたことを特徴とするスケートボード。
- (3) 本体の上面前部及び後部に足掛け用のフックを設けたことを特徴とするスケートボード。
- (4) 上面前部のフックは足の甲の略半分を覆う湾曲部を有する請求項1, 3記載のスケートボード。
- (5) 上面後部のフックは足の甲の先端部を引掛ける湾曲部を有する請求項2, 3記載のスケートボード。
- (6) フックは可撓性を有する請求項1, 2, 3, 4, 5記載のスケートボード

3. 考案の詳細な説明

産業上の利用分野

本考案はスケートボードに関し、特にスケー

1066

公開実用平成2-15183

トボードの本体上面に足掛け用のフックを設けることにより、スケートボードと身体とを一体に結合することができるようにしたものである。

従来の技術

近時、若者を中心として行動的なスポーツとレジャーを一体とした遊びが広く普及している。その代表的な例としてスケートボードの人気が高い。このスケートボードは、小型のボードの裏面に前後一対のローラを装着したものであり、使用者がボード上に乗り、坂道を利用したり、片足で地面を蹴る等して勢を付けて滑走するものである。そして熟練をした上級者になると、スケートボードにて各種のジャンプをしたり、回転をしたり等の空中に浮遊するプレイをするものであり、この空中へのジャンプはスケートボードの妙技の一つとなっている。世界的なスケートボード競技会においては蒲ぼこ型の内面が湾曲面を有するリンクにおいて空中に浮遊する数々のジャンプの妙技が披露されている。かかるジャンプの際、スケートボードと競技者とは結合されていないため、ジャンプ

時には足から外れないように片手でスケートボードの端部を支えてやる必要がある。そのため、この支持動作がさらなる妙技の障害ともなっていることもある。また一般多数の者にとっても、このジャンプはあこがれであり、競技とまでいかなくとも、わずかな段差を利用したジャンプを楽しみたいものであるが、ジャンプ時にスケートボードが追随せず、着地が上手く出来ないことが多い。さらに通常の滑走時においてはスケートボードが離れてしまって転落したり、滑走が上手く出来ないことが多い。

考案が解決しようとする問題点

上述のように、現状におけるスケートボードは足に結合すべき何らの構成を有さず、スケートボードの上面に足を載せて走行し、かつ、空中技を披露するものであるから、競技者とスケートボードとの不離一体性を保つことが難しく、空中への浮遊あるいは簡単なジャンプの楽しみを制約をしているものである。また一方においてスケートボードの上面に足を全く固定してしまったのでは、逆

公開実用平成 2-15183

に競技者が負傷してしまうことが多くなってしま
う。

そこで本考案は、競技者がスケートボードと不
離一体となりうるとともに、不測時には即時に分
かれることができて、初心者であっても気軽に、
又上級者はより高度にジャンプを楽しむことができ
き、さらに滑走時の一体性を高めることのできる
スケートボードを提供するものである。

課題を解決するための手段

本考案は上記課題を解決するため、スケートボー
ドの本体の上面前部と後部にそれぞれ単独で若し
くは併せて、足を掛けることのできるフックを設
けることとしたものであり、また、上面前部のフッ
クは足の甲の略半分を覆う程度の湾曲部を有し、
上面後部のフックは足先部を引掛ける程度の湾曲
部を有するものであって、さらにこのフックは可
撓性を有する構成としたものである。

作用

上記構成の本考案によれば、フックに足を掛け、
スケートボードを走行させ、ジャンプ等の空中技

をするときはそのフックによって足とスケートボードを結合することができて、スケートボードと競技者を一体化できるため、スケートボードを手で支持する必要がなく、より自由にジャンプを楽しむことができる。また初心者にあっても簡単にジャンプの楽しみを享受することができる。さらにフックに足を掛けることにより滑走時的一体性を高めることができる。また足はフックに引掛けているのみであるため、不測のときには容易にスケートボードが外れるので事故を生じるおそれがない。さらにフックは可撓性を有するため、転倒時等においてもフックで怪我をすることがない。

実施例

以下に本考案の構成を図面に示す一実施例について説明する。

第1図及び第2図において、スケートボードの本体1は下面にローラ2を前後一対で回転可能に支承するとともに、そのローラ2の上部中心近傍における上面には湾曲したフック3、4が前後各1つ突設されている。前部のフック3は足の甲の

公開実用平成 2-15183

略半分を掛けることのできる大きな湾曲であり、後部のフック4は足先を掛ける程度の小さな湾曲であって、足による操作に支障のない大きさとする。このフック3，4は例えば塩化ビニール製等の可撓性があり、かつ、不用意に折損しない材質が望ましい。このスケートボードは第3図に示したように、フック3に利き足を、フック4に一方の足を、それぞれ引掛けて走行するとともに、空中へジャンプして浮遊する妙技を披露する。このとき利き足はフック3に、又一方の足はフック4の前後に変えるなどしてバランスをとり、しかも、足が本体1にフック3，4を介して常に一体として不離の関係にあるため、競技者5は空中へジャンプをしてもスケートボードを手で支持することなく、自由な姿勢を取ることができ、ジャンプを容易に。かつ、より高度に楽しむことができる。なお、フック3，4は足を本体1に固定するものではなく外れ易いので、転倒時等の不測の事態に対しても直ちに競技者5の足から外れて安全性が高い。またフック3，4は可撓性を有するため、

転倒時等においても競技者を傷付けることがない。

考案の効果

以上記載した本考案によると、スケートボードの本体に片足又は両足を引掛けるフックを突設したので、空中へのジャンプなどの妙技をするとき、競技者の足からスケートボードが外れるのを防止できて、競技者は存分の妙技をすることができる。よって初心者であっても気軽に、又上級者はより高度にジャンプを楽しむことができく、さらに滑走時の一体性を高めることができる。また、フックは足を掛けるだけあって、固定するものではないため、容易に外れ易く、しかも可撓性を有する材質であるため、不測の事態にも対処し易くて安全性が高い等の効果を奏する。

4. 図面の簡単な説明

図面は本考案にかかるスケートボードの一実施例を示し、第1図は側面図、第2図は平面図、第3図は作用説明図である。

公開実用平成 2-15183

1 … 本体 2 … ローラ 3 , 4 … フック

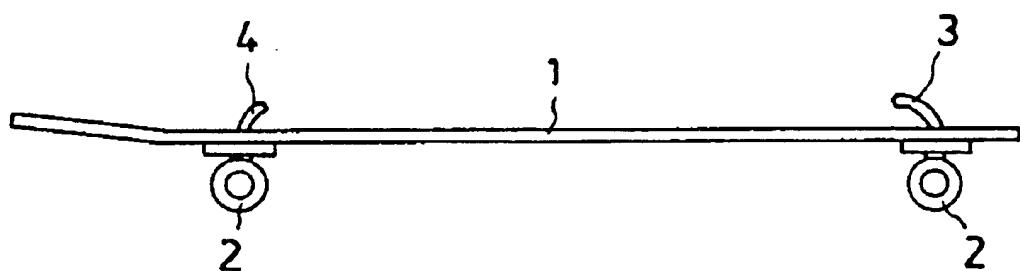
実用新案登録出願人 和田治

代理人弁理士 田中幹人

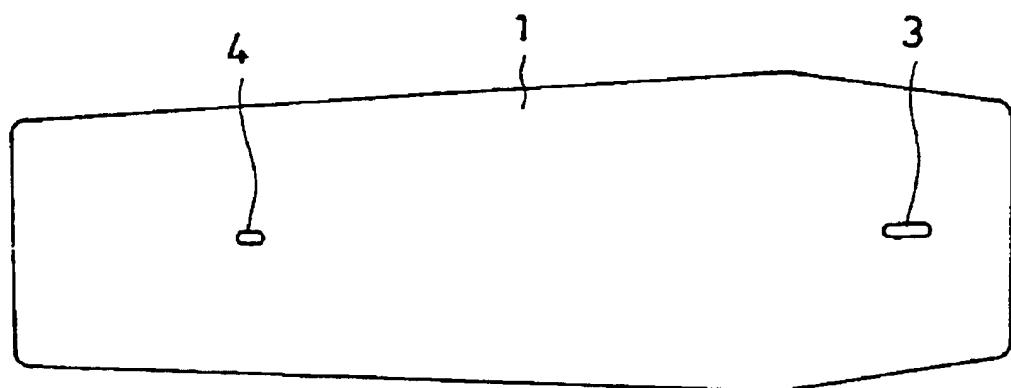


1073

第 1 図



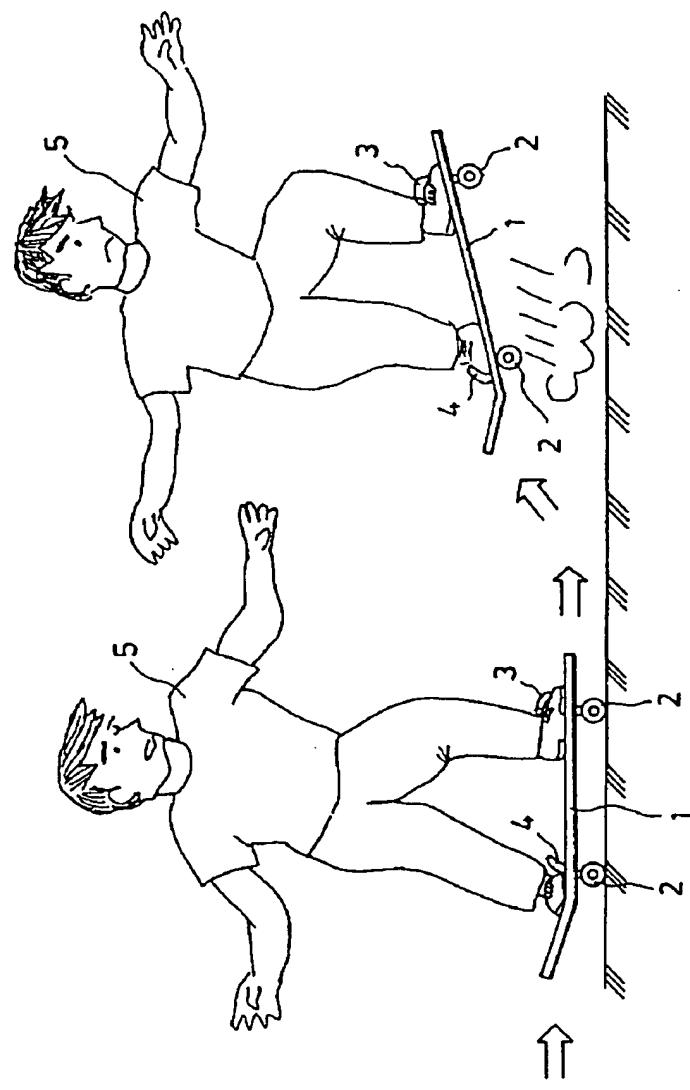
第 2 図



1074

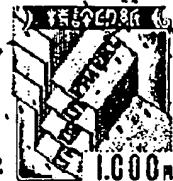
実開2-15183
代理人弁理士田中幹人

第3図



1075
実用2-15183
代理人弁理士田中幹人

公開実用平成 2-15183



(1,000円)

特許庁長官 殿

昭和63年 8月 8日

1. 事件の表示

実願昭63-93160号

2. 考案の名称

スケートボード

3. 振正をする者

事件との関係 出願人

住所

氏名 和 田 治

4. 代理人

住所 〒780 高知県高知市天神町14番25号

氏名 (8564) 弁理士 田 中 幹 人

電話 (0888) 33-3416

5. 振正により増加する請求項の数 1

6. 振正の対象

明細書全文

7. 振正の内容

別紙の通り

1076

方式審査

実開2-15183

藤森

明細書

1. 考案の名称

スケートボード

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 長尺状のボード本体の裏面前後方向に、一对のローラを回転可能に支承したスケートボードにおいて、

前記ボード本体の表面任意の部位に、プレイヤーの足先を係止するための単数又は複数のフックを装着したことを特徴とするスケートボード。

(2) ボード本体の表面前部に、プレイヤーの足先を係止するフックを装着した請求項1記載のスケートボード。

(3) ボード本体の表面後部に、プレイヤーの足先を係止するフックを装着した請求項1記載のスケートボード。

(4) ボード本体の表面前部及び表面後部に、プレイヤーの足先を係止するフックを装着した請求項1記載のスケートボード。

(5) ボード本体の表面前部に装着されたフックは、



1077

公開実用平成 2-15183

プレイヤーの足の甲の略半分を覆う湾曲部を保持してなる請求項 1, 2, 4 記載のスケートボード。

- (6) ボード本体の表面後部に装着されたフックは、プレイヤーの足の甲の先端部を覆う湾曲部を保持してなる請求項 1, 3, 4 記載のスケートボード。
- (7) フックは、可撓性を持つ素材により形成される請求項 1, 2, 3, 4, 5, 6 記載のスケートボード。

3. 考案の詳細な説明

産業上の利用分野

本考案はスポーツ用具としてのスケートボードに関し、特にスケートボードを構成するボード本体の表面任意の部位にプレイヤーの足先を係止するためのフックを装着することにより、スケートボードと身体とを一体に結合することができ競技性を高めたスケートボードに関するものである。

従来の技術

近時、若者を中心としてスポーツとレジャーを

一体とした行動的な遊びが広く普及している。その代表的な例としてスケートボードが高い人気を得ている。このスケートボードは、長尺状のボード本体の裏面前後方向に一对のローラを回転可能に支承したスポーツ用具であり、プレイヤーが前記ボード本体の表面上に乗り、坂道を利用したり、片足で地面を蹴る等して滑走するものである。

そして熟練をした上級者になると、スケートボードにてジャンプをしたり、回転をしたり等の空中に浮遊するプレイをするものであり、この空中へのジャンプはスケートボードの妙技の一つとなっている。更に近時は一般のスポーツ種目としても取り上げられており、競技会においては通常内面が湾曲した凹面を持つ専用のリンクにおいて空中に浮遊する数々の高度の技術が披露されている。

考案が解決しようとする課題

しかしながら、このような従来のスケートボードは、ボード本体とプレイヤーとが何等係止されておらず、単にプレイヤーがボード本体の表面上に立っているだけであるため、ジャンプ時にプレ

公開実用平成 2-15183

イヤーの足がボード本体から外れないように片手でボード本体の端部を支えてやる必要がある。そのため、この支持動作がさらなる高度のプレーを行なう上で障害になり易いという課題があった。即ち前記専用のリンクを利用したジャンプ若しくは回転は高度のテクニックを必要とする外、着地等の際にはかなりの危険性を伴っているものであり、とりわけ競技中のプレイヤーの足がボード本体から外れると、リンク上に転倒して怪我をすることになるので、プレイヤーは常にボード本体から転落しないように留意することが要求される。

更に一般多数のプレイヤーにとっても、このジャンプはあこがれであり、競技とまでいかなくとも、わずかな段差を利用したジャンプを楽しみたいものであるが、前記した如くジャンプ時にスケートボードが追随せず、プレイヤーの足がボード本体から外れ易いというおそれがあるため、ジャンプのテクニックを修得することが困難である。特に初心者の場合には、通常の滑走時にあっても足がボード本体から外れて転落してしまうことが多く

滑走が上手く出来ないという問題点を有している。即ち現状のスケートボードはボード本体とプレイヤーとが何等係止されていないため、その不離一体性を保つことが難しく、空中への浮遊あるいは簡単なジャンプの楽しみを制約しているものである。

また一方においてボード本体の表面上にプレイヤーの足を全く固定してしまったのでは、転倒時に逆にプレイヤーの足が自由にならず、負傷の度合いが大きくなってしまうという難点がある。

そこで本考案は、このような従来のスケートボードが有している各種の課題を解決して、競技中にあってはプレイヤーの足をボード本体に係止してスケートボードと不離一体となりうるとともに、転倒等の不測時にはプレイヤーの足が即時にボード本体から離脱することができて、初心者であっても気軽に、又上級者はより高度にジャンプを楽しむことができ、さらに滑走時の一体性を高めることのできるスケートボードを提供するものである。

公開実用平成 2-15183

課題を解決するための手段

本考案は上記課題を解決するため、長尺状のボード本体の裏面前後方向に、一对のローラを回転可能に支承したスケートボードにおいて、前記ボード本体の表面任意の部位に、プレイヤーの足先を係止するための単数又は複数のフックを装着したスケートボードの構成を基本としている。またボード本体の表面前部に、プレイヤーの足先を係止するフックを装着し、更にはボード本体の表面後部に、プレイヤーの足先を係止するフックを装着した構成にしてある。

更にボード本体の表面前部及び表面後部にプレイヤーの足先を係止するフックを装着しており、又ボード本体の表面前部に装着されたフックは、プレイヤーの足の甲の略半分を覆う湾曲部を保持する形状にしてある。

一方ボード本体の表面後部に装着されたフックは、プレイヤーの足の甲の先端部を覆う湾曲部を保持した形状にしてあり、更にフックは、可撓性を持つ素材により形成されたスケートボードを提

供する。

作用

上記構成の本考案によれば、競技に際してプレイヤーはボード本体の表面任意の部分に装着されたフックに両足又は片足を係止して走行させることにより、滑走時の一体感を高めることができる。そしてジャンプ又は回転等のテクニックを駆使する際には、前記フックによりプレイヤーの足とボード本体を係止した状態を保つことができて、スケートボードとプレイヤーを一体化できるため、ジャンプ時等においてボード本体を手で支持する必要がなくなり、より自由にジャンプ等を楽しむことができて、プレー上での何等の障害がないという作用が得られる。また初心者であっても簡単にジャンプの楽しみを享受することができる。

また足はフックに係止しているのみであるため、プレイヤーが転倒等の不測の事態になった場合には容易にボード本体から離脱するので、プレイヤーの足が自由となって大きな負傷をするおそれがない。

公開実用平成 2-15183

更に前記フックを可撓性を持つ素材を用いて形成したことにより、転倒時にあってもフックによってプレイヤーに負傷を負わせるおそれがないという特徴が発揮される。

実施例

以下に本考案に係るスケートボードの各種実施例を図面に基づいて説明する。

第1図及び第2図に示した構成において、1は長尺のボード本体であり、このボード本体1の裏面前後方向には一対のローラ2、2が回転可能に支承されている。またボード本体1の表面任意の部位に、プレイヤー5の足先を係止するためのフック3、4が装着されている。図示例の場合、フック3はボード本体1の表面前部に取付けられており、フック4はボード本体1の表面後部に装着されている。前部側のフック3はプレイヤー5の軸足を確実に係止できるように足の甲の略半分を覆うことができる大きな湾曲部を保持しており、後部側のフック4はプレイヤー5が利き足にて地面を蹴ったり、位置を変えてバランスをとったりす

る操作に支障のない足の甲の先端部を覆う程度の小さな湾曲部を保持している。

尚、本考案の場合、ボード本体1の表面に装着する前記フックは、前部側のフック3のみであっても良く、又後部側のフック4のみであっても良い。また前記フック3，4は例えば塩化ビニール等のように可燃性があり、かつ、不用意に折損しない素材を用いることが望ましい。

かかるスケートボードの構成によれば、使用時において第3図に示した如く前部側のフック3にプレイヤー5の軸足を係止するとともに、後部側のフック4に利き足を係止して走行するとともに、空中へジャンプして浮遊する妙技を楽しむものである。このとき軸足はフック3に係止し、又利き足はフック4に係止したりその前後に位置を変えるなどしてバランスをとり、しかも足がフック3，4に係止されてボード本体1と一体として不離の関係にあるため、プレイヤー5は空中へジャンプした際にあってもボード本体1がプレイヤー5の足から離脱することができないので、ボード本体1を

公開実用平成 2-15183

手で支持する事なく、自由な姿勢を取ること
ができる。ジャンプ等を容易に、かつ、より高度に
楽しむことができる。更に通常の走行時にあって
は、プレイヤー5の軽足のみをフック3に係止し、
利き足はフック4に係止せずに、ボード本体1上
で自在にステップさせることにより、プレイヤー
5の姿勢を良好に保ち、かつ、バランスを取るよ
うにすることもできる。

なお、フック3、4は足をボード本体1に固定
するものではなく、外れ易いので、プレイヤー5
が転倒した際にはプレイヤー5の足を直ちに離脱
させて安全性が高い。

またフック3、4は可撓性を有するため、転倒
時においてもプレイヤー5を傷付けるおそれがな
い。

考案の効果

以上記載した本考案によると、競技に際してプ
レイヤーはボード本体の表面任意の部分に装着さ
れたフックに両足又は片足を係止して走行するこ
とにより、滑走時的一体感を高めることができる。

そしてジャンプ又は回転等のテクニックを駆使する際には前記フックによりプレイヤーの足とボード本体を係止した状態に保つことができるため、ジャンプ時等においてプレイヤーがボード本体を手で支持する必要がなくなり、かつ、ジャンプした際にボード本体がプレイヤーの足から離脱することができないので、空中での各種妙技を披露することができる。また通常の走行時にあっては、プレイヤーの軸足のみを前部のフックに係止し、利き足をボード本体上で自在にステップさせることにより、プレイヤーの姿勢を良好に保ち、バランスを取ることができる。また前記フックはプレイヤーの足を係止するものであって、固定するものではないため、容易に離脱するものであるため、プレイヤーが転倒等の不測の事態になった場合にあってもプレイヤーの足が直ちに自由となって大きな負傷をするおそれがない。更に前記フックを可撓性を持つ素材を用いて形成したことにより、転倒時にあってもプレイヤーの足が負傷するおそれがない、等の大きな効果が得られる。

公開実用平成 2-15183

4. 図面の簡単な説明

図面は本考案にかかるスケートボードの一実施例を示し、第1図は側面図、第2図は平面図、第3図は使用状態を示す説明図である。

1 … ボード本体

2 … ローラ

3 , 4 … フック

実用新案登録出願人

和 田 治

代理入弁理士

田 中 幹 人



1088